

キャンプカーマガジン

CampCar

MAGAZINE

ジムニー・プラス8月号増刊 www.campcar-mag.com

定価800円



最新モデル登場!
ANNEX
LIBERTY52DB

Let's Enjoy Summer!

夏を遊べ!

北海道
マリンレジャー
釣り
キャンプ

特別付録
CCM 特製うちわ付き



走りを極める
快適な走りには何が必要か?

シーズン前にスッキリ!

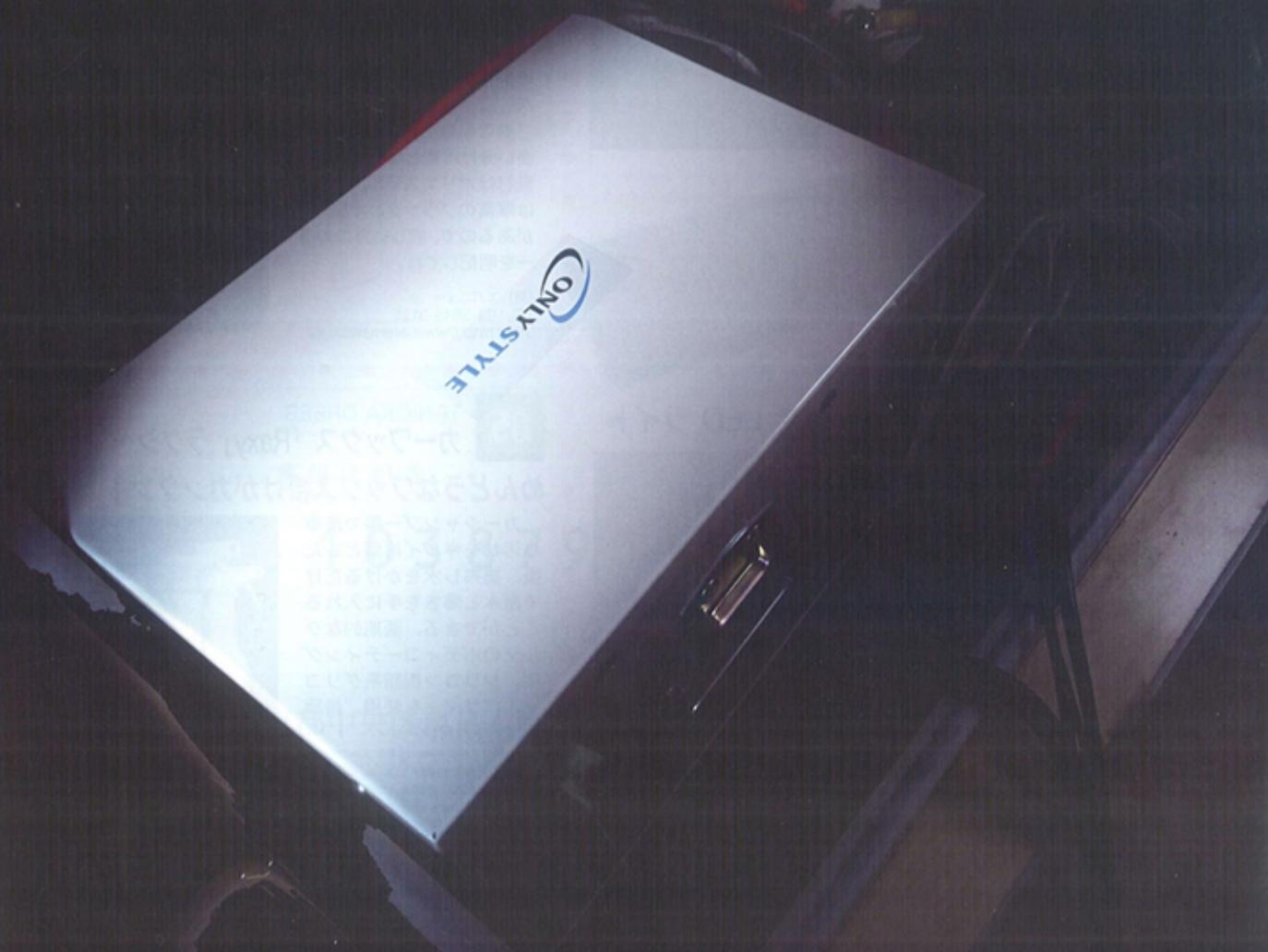
キャブテンスタッフ
ラッピングレンタカー
レビュー



キャンピングカーのバッテリー庫に合わせたサイズ感

275mmが生んだ可能性

リチウムイオンバッテリー 200AH LOW version



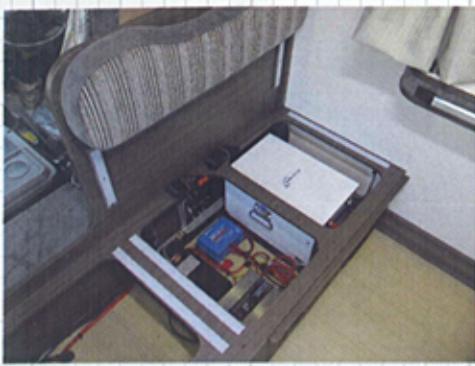
シート下に収納できる 大容量バッテリー登場

キャンピングカーに求められる機能性は、年々高くなる一方だ。豪華な設備が設置され、ユザーの満足度は満たされるが、新たな課題も浮上してきた。それは、電源の確保。照明、冷蔵庫、TV、ベンチレーターなどに加え、クーラーや電子レンジなどの快適装備である電化製品が増えて、電気の消費量も増えている。現代のキャンピングカーにとって、電源確保は重要なポイントなのだ。

そこで、注目されているのが大容量バッテリーだが、気をつけなければならないことも。

コンパクトでありながら大容量を誇るリチウムイオンバッテリー。キャンピングカーにも実装され、その恩恵を受けているオーナーも多いことだろう。しかし、さらなる快適性を求め、より多くの電力を必要とするユーザーも増えてきた。そこで、大容量のリチウムイオンバッテリーを搭載したくなるのだが、いくらコンパクトとはいえ、容量が増えればバッテリーサイズがネックとなることも。そこで登場したのが、リチウムイオンバッテリー 200AH LOW versionだ。

PHOTO: オンリースタイル TEXT: 編集部
協力: オンリースタイル <http://www.shachu-haku.com/>



キヤブコンのシート下にロードバージョンをセト。車種によっても違うが、この写真のモデルでは既存のバッテリースペースにもビタリとはまっている。このように、すでに実車に搭載され始め、高い評価を受けている。

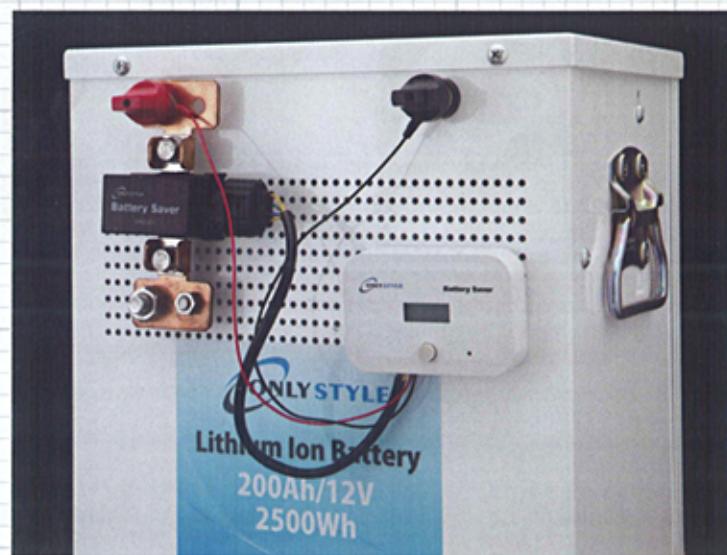


大容量 200AH ながら縦 428×横 285×高 275mmというコンパクトサイズを実現。リチウムイオンバッテリーは軽量で長寿命が特徴だが、大放電に強く、急速充電も可能だ。トータルコストで考えるとコストパフォーマンスも高い。価格は 30万 5000円+税。



右がこれまでの 200AH モデル。高さは 337mm。左のロードバージョンは同じ容量で高さが低くなり、用途が広がった。形が変わったが、これまで同様に徹底した品質管理が行われている。

バッテリーの大敵「過放電」を防ぐシャットダウン

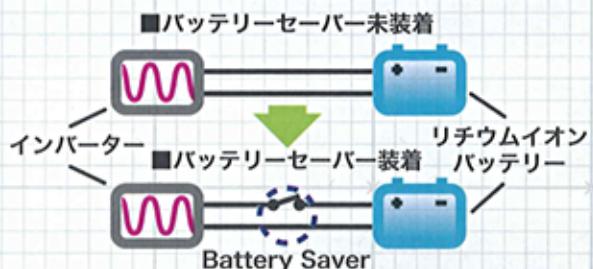


従来品ではカバーできなかった 1500W インバーターなども接続できるようになった過放電防止装置「Battery Saver」。超小電力システムで、インジケーターにはリレーの状態などが表示される。ディープサイクルバッテリーにも対応可能だ。価格 3万 3000円+税。

高性能バッテリーであっても、使い方を間違えるとバッテリーの劣化が早まることがある。ミスとして特に多いのが過放電だ。接続電化製品の消し忘れもあるが、インバーターの消し忘れというのも多い。そんな過放電を未然に予防するアイテムが発売された。



サブバッテリーの電圧を常時監視する「Battery Saver」システム。規定電圧を下回るリレーでバッテリーとインバーターなどの機器との接続を遮断する。



従来品ではカバーできなかった 1500W インバーターなども接続できるようになった過放電防止装置「Battery Saver」。超小電力システムで、インジケーターにはリレーの状態などが表示される。ディープサイクルバッテリーにも対応可能だ。価格 3万 3000円+税。

最大限引き出すシステムが組み込まれた。これにより、安全性と信頼性をも高められた。バッテリー容量、収納スペースとともにクリアになることで、ユーザーの選択の幅が広がり、リチウムイオンの存在が、さらに身近になることだろう。